

NISSHA 株式会社
「2021 年 12 月期 Q3 WEB 決算説明会」
質疑応答の要旨
(2021 年 11 月 10 日開催)

Q1. メディカルテクノロジー事業の営業利益予想を下方修正した理由は。

A1. 事業活動の中心地域であるアメリカにおいて人件費や原材料費の高騰により収益を押し下げられている。今後は顧客への価格転嫁を行う。

Q2. メディカルテクノロジー事業の今後の見通しはどうか。

A2. 次期は増収増益の見通し。オリンパスの米国拠点から当社工場への製造ライン移管による売上高の拡大を見込む。売上高を大きく拡大させるためには M&A が必要。

Q3. メディカルテクノロジー事業の M&A ターゲットは。

A3. 低侵襲の手術機器の領域を拡大していきたい。

Q4. 産業資材事業の Q3 売上高が Q2 比で減少した理由は。

A4. 自動車メーカーの減産の影響。Q3 で底を打ったと見ているが、半導体不足の影響を注視する。

Q5. 産業資材事業において原材料費の高騰の影響は。

A5.それほど大きな影響ではないが、蒸着紙の主要材料である紙、加飾分野の成形樹脂の価格高騰は長引くかもしれない。

Q6. 産業資材事業の今後の見通しは。

A6. 次期は増収を見込む。

Q7. デバイス事業におけるタブレット向けの次期の見通しは。

A7. 横ばいの見通し。数量ベースで今期並みの見込み。

Q8. デバイス事業のモビリティ、産業用端末の状況は。

A8. モビリティはコロナ影響で需要拡大が想定より少し遅れているが、新規受注は順調にとれており拡大基調。産業用端末は安定して成長している。

Q9. 配当について次期以降の考え方は。

A9. 安定配当の継続をベースに、当期の業績を加味して特別配当などを適宜検討する。

Q10. 財務体質の改善と成長投資の考え方は。

A10. 財務の健全性を図りつつ成長投資を積極的に実行していく。

9月末の現金及び現金同等物は平均月商の約2.4倍だが、3倍程度が適切な水準だと考えている。加えて、成長投資を実行するために、財務の健全性を確保しつつ継続的に資金調達を実行する。

以上